

第90期
事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

トップインタビュー



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2024年3月期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。



2024年3月期のフクビ化学は、どのような1年でしたか？

当連結会計年度におけるわが国経済は、コロナ禍からの社会経済活動正常化とともに緩やかな回復基調が続きましたが、「令和6年能登半島地震」による下押しの影響もみられました。今後も緩やかな回復が続くことが期待される一方で世界経済の減速、物価上昇、コスト高、人手不足などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

住宅業界においては、材料高による建築費の上昇や建築資材の供給不足等の影響もあり、2023年度の新設住宅着工戸数は、戸数800千戸（前年比7.0%減）、床面積62,195千㎡（同9.4%減）となりました。

このような環境の下、当社グループでは、2023年度からスタートした第7次中期経営計画「技術を押し出し、未来へワクワク（2023年度～2027年度）」に基づき、下記の3つの基本方針に則り具体的施策を実施しました。

●循環型ビジネス拡大

建材事業本部では、低炭素社会の実現に向けた商品開発を推進しており、環境配慮型乾式二重床『フリーフロアーE-CP』を新たに発売しました。また、積水ハウス株式会社、エスエスピー株式会社の2社と共同して「塩ビクロス」廃材をアップサイクルしたデザイン建材を開発するなど、「塩ビクロス」のリサイクル促進に向けた取り組みを進めています。

再生木製品事業では、2023年9月には、再生木では業界初となる「エコリーフ」を取得しました。『プラスッド』の環境価値を顧客へ明確にお伝えし、再生木製品事業の強みである「素材の質」と「デザイン性」を高めるとともに、「環境への配慮」を訴求することで競争力の向上と収益拡大を図りました。

●強靱な収益基盤構築

第7次中期経営計画において事業ポートフォリオの再構築を重要課題としてしています。各事業本部にて将来性の高い分野へのリソースシフトや収益力の低い分野の見直しを継続して実施しています。また、新規事業の創出や新市場の開拓に向けて、協業先やアライアンス先の探索に取り組まれました。

収益改善においては、原材料の価格変動に対応するため適切な価格設定を行うとともに、高付加価値製品の販売強化を図りました。また、資本効率やキャッシュフローの観点から在庫の最適化にも取り組んでおり、生産計画や物流管理の見直しにより適正水準の維持に努めました。

原価低減では、生産性の向上を目指して押出成形の標準化モデルライン稼働による作業工程の簡素化やコスト削減を図りました。また、物流コストの最適化とお客さまサービスの向上の両立を図るべく、拠点の見直しを実施しています。

●成長を後押しする組織づくり

全社エンゲージメント調査結果は経営層と共有し、浮かび上がった課題認識を改善に向けた施策に落とし込んでいます。また、将来のタレントマネジメントを見据えて人材情報のデータベース化を進めるとともに、従業員の適性やパフォーマンスに応じた配置を進めました。従業員の健康増進の観点からは、健康経営宣言を発表し「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）」に認定されるなど、組織全体として従業員の健康管理に取り組んでいます。

コーポレートガバナンスの強化においては、新たな経営執行体制を見据えて決裁権限の委譲や、社内規程の整備などに着手しました。各事業本部の自主性と戦略性を高めるとともに、意思決定の迅速化を図るなど次期からスタートするCxO体制を機能させる取り組みを進めております。

DX推進では、基幹システム(ERP)の導入が完了し、業務の効率化や情報の可視化による、ビジネスプロセスの変革や収益構造の改善に向けて取り組みました。また、併行して管理会計システムの導入を進めており、今後、財務戦略の策定や収益管理に生かしてまいります。

以上により、当連結会計年度の売上高は、397億35百万円と、前期に比べ0.4%の増収となりました。



今後の対処すべき課題について教えてください。

コロナ禍からの社会経済活動が正常化する中、今後も緩やかな回復が続くことが期待される一方で、「令和6年能登半島地震」による下押しの影響、世界経済の減速、物価上昇、コスト高、人手不足など、社会環境において不確実性がさらに高まっています。そのような変化の中で持続的成長を維持していくために革新的な企業改革を行いつつ、社会や環境に配慮したビジネス活動を推進し、社会貢献することで価値創造に努めてまいります。

しかしながら、長期的な成長と企業価値をさらに高めていくには、以下のような解決すべき課題があると認識しております。

①ガバナンス体制の整備

新たな経営体制に変わり、当社グループはガバナンス体制を強化することを課題として捉えております。取締役会の機能を強化し、意思決定の透明性と迅速性を高め、株主や関係者に対する信頼の向上と企業価値の最大化を図ります。

②人的資本経営の推進

当社グループは、中長期的な経営戦略の遂行および対処すべき課題への取り組みに際して、変化に対応し社会的な価値を創出することのできる優秀な人材の確保・育成が必須であると

考えております。意欲のある経験値の高い人材を確保するとともに、持続的な成長を支える人材の育成、個々のパフォーマンスの最大化のため、環境の整備・改善に注力してまいります。

③サステナビリティ経営の推進

サステナビリティ経営をさらに推進・強化すべく、組織・体制を整備し持続可能な社会の実現に向けた役割を果たしてまいります。

④新規事業の創造

新規事業の創造において、環境や社会の変化に合わせ、お客さまの期待を満たすために、既存事業と協力しながら、新しい価値やソリューションを提供する事業領域を掘り起こしてまいります。より長期的な視野で未来の市場や社会のニーズを見極め、最先端の技術やビジネスモデルのイノベーションに積極的に挑戦してまいります。サステナビリティ経営の観点からも、新規事業の創造は、社会課題の解決と企業価値の向上の両立に寄与する重要な取り組みと考えております。



最後に、株主さまへのメッセージをお願いします。

当グループが主要マーケットとする国内住宅業界では、アフターコロナの消費行動の変化や建設コスト増の影響もあり住宅着工戸数は依然として厳しい状況が続くと予想されます。建設現場での人手不足や高齢化が深刻化し、職人の確保や技術継承なども懸念しています。

一方で、環境に配慮した住宅や非住宅、リフォーム分野の重点事業領域へ販売戦略を推し進め、新たな市場を創造する活動を継続してまいります。

2023年度よりスタートした第7次中期経営計画における3つの基本戦略「循環型ビジネス拡大」「強靱な収益基盤構築」「成長を後押しする組織づくり」を積極的に推し進めることで2025年3月期の連結業績は、売上高408億円、営業利益18億円、経常利益21億30百万円、親会社株主に帰属する当期純利益17億25百万円を予想しています。

今後も中長期を見据えた計画の着実な実行により株主の皆さまのご期待に応える企業へと成長を果たす所存ですので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 CEO **八木誠一郎**

全国新設住宅着工戸数の推移

(単位:戸数)



(出典:国土交通省)

2023年10月～2024年5月の主なTOPICS

3製品が「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました

2023年
10月5日



東京都多摩産木材活用事業
「プラスッド・TM」



食品工場用巾木
「ソリッドライン」



建築廃材のリサイクル建材
「塩ビクロス廃材を利用した建材」

東京都多摩産木材活用事業『プラスッド-TM』、食品工場用巾木『ソリッドライン』、建築廃材のリサイクル建材「塩ビクロス廃材を利用した建材」の3製品が「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

受賞した3製品はいずれもフクビグループのSDGs活動推進から生まれた製品で、それぞれの製品の「安全性」や「環境性」が高く評価されました。

プラスッド『ソライエデッキ彫PLUS』を発売しました

2023年
11月20日

住宅の外構等で使用される再生木系外装材『ソライエデッキ』において、木目エンボスを施した『ソライエデッキ彫PLUS』を発売しました。デザイン性の高いデッキ材を求めお客さまの声にお応えし、実際の木材に近いオリジナルの木目デザインを施し意匠性を高めました。天然木材の木目を再現するために木目エンボスと呼ばれる加工を行い、さらに、表面に粗し加工をすることで木目柄を際立たせています。



能登半島地震被災地へ義援金を寄付しました

2024年
2月29日

「令和6年能登半島地震」により被災された方々の支援および被災地の復興にお役立ていただくため、石川県、富山県、福井商工会議所を通じ、総額10,500,000円の義援金を寄付させていただきました。

フクビグループでは、引き続き被災地域の状況に沿った支援を続けてまいります。皆さまの安全と被災地の一日も早い復旧・復興を、心よりお祈り申し上げます。



「健康経営優良法人 2024 (大規模法人部門)」に認定されました

2024年
3月11日



経済産業省と日本健康会議が共同で運営する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」に認定されました。本制度は、経済産業省が地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。引き続き、グループを挙げて健康経営を推進してまいります。

「株主さま工場およびショールーム見学会」を実施しました

2024年
3月19日

株主さまとの対話の場、事業の取り組みや製造現場へのご理解を一層深めていただく場として、第2回「株主さま工場およびショールーム見学会」を開催しました。株主さまからは、「多くの製品を見ることができた。身近なところに製品が使われていると知り、より親近感が湧いた。」「仕事をされている社員さんのすぐ横で、実際の仕事の様子が見れてよかった。」といった感想をいただきました。

今後も、当社ではこのような見学会の実施を検討してまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



フクビ化学、長瀬産業、キャプテックスの3社で環境配慮型スマートベンチを共同開発しました

2024年
4月23日



フクビ化学工業株式会社と長瀬産業株式会社、株式会社キャプテックスの3社は、リサイクル樹脂、リユース電池を使用した環境配慮型のスマートベンチを共同開発し、実証実験を2024年3月より開始しました。なお、リサイクル樹脂およびリユース車載バッテリーを活用したスマートベンチの開発は、業界でも先進的な事例となります。実証機は静岡県裾野市に設置され、利便性・安全性等の実証を経て2025年度の実用化を目指します。

おしだ 技術を押し出し、未来へ ワクワク

これまで培った樹脂加工技術を軸に事業領域を広げ、
サステナブルな社会を創造します。

第7次中期経営計画基本戦略

戦略1

循環型ビジネス拡大

- ・プラスチックリサイクルへ事業領域を拡大し、循環型社会に貢献する
- ・環境配慮型商品のブランド展開とフクビの5R[※]実践によりグループの存在感を高める

※Reduce、Reuse、Recycle、Renewable、Revalue

戦略2

強靱な収益基盤構築

- ・当社の強みである、材料配合・成形加工技術に関するバリューポジションをさらに拡大する
- ・社会のニーズに沿った商品開発や採算性を意識した事業ポートフォリオの再構築、生産性向上によるさらなる原価低減を通じて付加価値をさらに高める

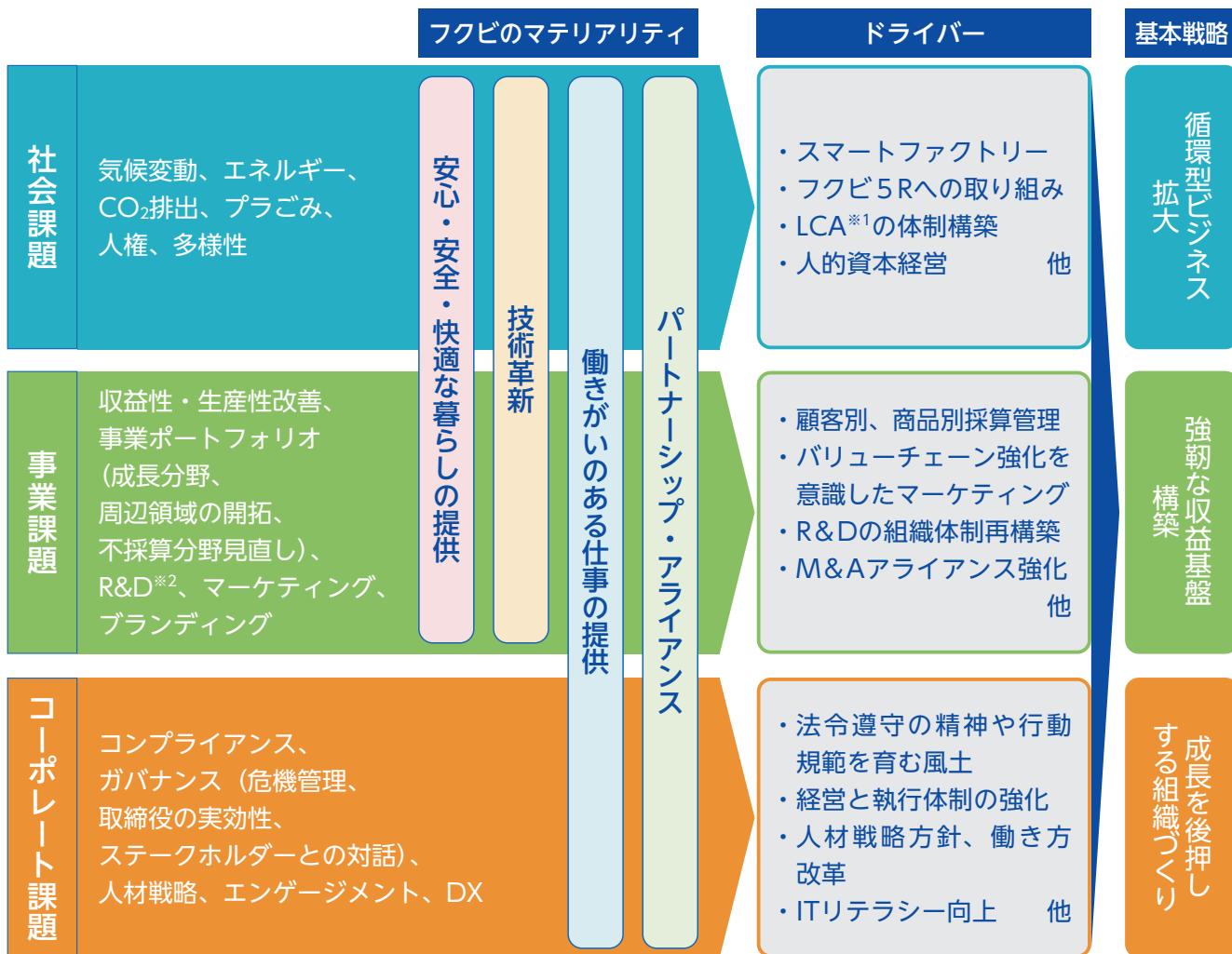
戦略3

成長を後押しする組織づくり

- ・人的資本への積極的取り組みにより、従業員エンゲージメントを高め、社員の力が最大限発揮できる清新な組織への改革を加速させる
- ・戦略を確実に実行するためのガバナンス体制を強化する

◆第7次中期経営計画の概要

マテリアリティと基本戦略の位置付け



※1 Life Cycle Assessment（製品やサービスに対する、環境影響評価の手法）

※2 Research and Development（企業等の研究開発活動）

第7次中期経営計画(2023年度～2027年度)

◆数値計画と実績(連結)

中期経営計画の初年度は、売上高397億35百万円、営業利益は17億53百万円と前期比で増収増益

		2022年度実績	2023年度実績	2027年度計画	長期目標 (2030年度展望)
収益性 (単位:百万円)	売上高	39,567	39,735	45,000	50,000
	営業利益	1,554	1,753	2,800	3,500
	経常利益	1,902	2,117	3,120	—
	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,482	1,704	2,160	—
資本効率	ROIC (投下資本利益率)	3.7%	3.3%	5.9%	—
	ROE (自己資本利益率)	4.5%	4.9%	6.0%	—
財務健全性	D/E レシオ	0.028 倍	0.034 倍	0.4 倍以下	—
	自己資本比率	66.0%	67.2%	65.0%	—

◆基本戦略への取り組み

3つの基本戦略を念頭に置いた活動を展開

基本戦略	1. 循環型ビジネス拡大	2. 強靱な収益基盤構築	3. 成長を後押しする組織づくり
成果	<p>【循環型社会への貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境配慮型商品の初年度売上目標達成 ✓ 環境配慮型商品のラインナップ追加（環境配慮型乾式二重床『フリーフローアー E-CP』発売） ✓ 環境配慮型商品の新商品投入計画は未達 ✓ 塩ビクロスにおけるアップサイクルの協業スキームの構築（フクビ化学、積水ハウス、エスエスピー共同発表） ✓ NDデッキ製品のラインナップ追加 ✓ 再生木業界初の「エコリーフ」取得 ✓ 再生木の研磨粉リペレット化着手 <p>【SDGsへの取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CO₂削減初年度目標達成 ✓ 産業廃棄物削減の初年度目標達成 	<p>【事業ポートフォリオの再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 協業先・アライアンス先の探索 ✓ 再構築に向けた戦略や体制の検討継続 <p>【収益性改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 調達価格変動に伴う価格設定 ✓ 高付加価値製品の販売強化 ✓ 資本効率・キャッシュフローの観点より適正在庫検討 <p>【原価低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 生産性改善に向けた自動化・省人化設備導入 ✓ 押出成形標準化モデルライン稼働 ✓ 物流拠点の再編（6 ⇒ 5 拠点） 	<p>【人的資本経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全社エンゲージメント調査に基づいた活動展開 ✓ 人的資本経営に関する経営層への展開、アクションプラン策定 ✓ 新たな人事評価制度の運用開始 ✓ タレントマネジメントを見据え人材データベース化を加速 ✓ チャレンジジョブ制度の検討 ✓ 健康経営宣言を行い「健康経営優良法人 2024（大規模法人部門）」に認定 <p>【ガバナンスの強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ガバナンス強化に向けた経営執行体制（CxO体制等）の検討 ✓ 決裁権限の見直し、社内規程の整備 <p>【DX推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基幹システム（ERP）導入 ✓ 管理会計システム導入検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックリサイクルへ事業領域を拡大し、循環型社会に貢献する ・環境配慮型商品のブランド展開とフクビの5R[*]実践によりグループの存在感を高める <p><small>* Reduce、Reuse、Recycle、Renewable、Revalue</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の強みである、材料配合・成形加工技術に関するバリューポジションをさらに拡大する ・社会のニーズに沿った商品開発や採算性を意識した事業ポートフォリオの再構築、生産性向上によるさらなる原価低減を通じて付加価値をさらに高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資本への積極的取り組みにより、従業員エンゲージメントを高め、社員の力が最大限発揮できる清新な組織への改革を加速させる ・戦略を確実に実行するためのガバナンス体制を強化する

フクビグループ SDGsの取り組みについて

当社グループでは2020年11月にSDGs宣言を行い、2021年5月に具体的数値目標を掲げて、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくことといたしました。このたび2023年度までの進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたします。



フクビグループSDGs 4つの基本姿勢・マテリアリティ・KGI・取り組み

基本姿勢1
技術と提案力で
安心・安全・快適な
暮らしを創造する

マテリアリティ：安心・安全・快適な暮らしの提供
KGI：安心・安全・快適を実現する製品開発の推進

居住空間、公共空間、気候変動、地球環境、高齢者、子どもの観点から安心・安全な製品を開発し、これらの拡販を通じ社会課題を解決する製品を増やし、住み続けられるまちづくりに貢献する。
新商品累計22件
●物流倉庫の安全に寄与する製品：フォークガード200
●火災の延焼を防ぐ製品：フェノバボードR不燃認定取得



基本姿勢2
環境と共に生きる
社会を創造する

マテリアリティ：技術革新
KGI：資源循環の推進

低炭素社会と資源循環型社会の実現に貢献する。
●資源循環の構築：環境ブランド「Fukuvalue」の認証基準をより明確にし妥当性を検証するための「Fukuvalue認証審査会」を新設。2030年度累計30アイテムを目指し全8アイテムを登録
●産業廃棄物の削減推進
●CO₂排出量の削減推進



基本姿勢3
スマートワークで
「一人ひとり」の
活躍を創造する

マテリアリティ：働きがいのある仕事の提供
KGI：デジタルの活用推進
従業員エンゲージメントの向上

従業員エンゲージメントを高め、多様性と働きがいのある環境を実現させる。
●健康経営優良法人2024（大規模法人部門）認定
●ペーパーレス推進：電子帳簿保存法への対応、電子契約システムの導入
●ダイバーシティ&インクルージョンの推進：採用女性比率26.1%
●人材育成・活性化：女性管理職4.2%
●柔軟な働き方の推進：在宅勤務利用率21%、男性育休取得率33%



基本姿勢4
パートナーシップで
持続可能な
地域社会を創造する

マテリアリティ：パートナーシップ・アライアンス
KGI：パートナーシップによる価値の創出

社外とのパートナーシップを高め、共通のテーマ・目標について協働することにより、自社のみでは達成しえない社会課題の解決に貢献する。
●パートナーシップ 新規5件
●地域資源循環テーマ推進



サステナビリティ・ESGの推進

当社グループでは、2023年4月サステナビリティ委員会を経営会議の下部組織として設置し、その事務局、運営機能を主とするサステナビリティ推進室を立ち上げ、サステナビリティ・ESG推進体制の強化を図っています。

サステナビリティ委員会は持続可能な企業であり続けるため、ESGに関する情報の収集と分析、存在価値の向上に向けた方針、戦略の企画・立案・提言を行います。本委員会は2回開催され、第1回は「2030年度女性管理職比率20%以上達成に向けた取り組みと課題」、第2回は「2030年度産業廃棄物2019年度比50%削減」を主題として現状分析とその対応について検討、それぞれ事業部単位の実行計画へ落とし込みを行いました。これらの計画を2024年度に実行に移し、委員会他にて進捗を確認していきます。

さらにサプライチェーンのCO₂排出量を把握し、削減目標を策定、実行していくためにScope3の算定を開始いたしました。

またサステナビリティ推進室では、これらサステナビリティに関する進捗状況の情報開示を行っていくとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションの強化など当グループのサステナビリティ活動の支援や資源循環の取り組みに関する企画を立案し、実行していきます。



2030年度目標 (KPI)



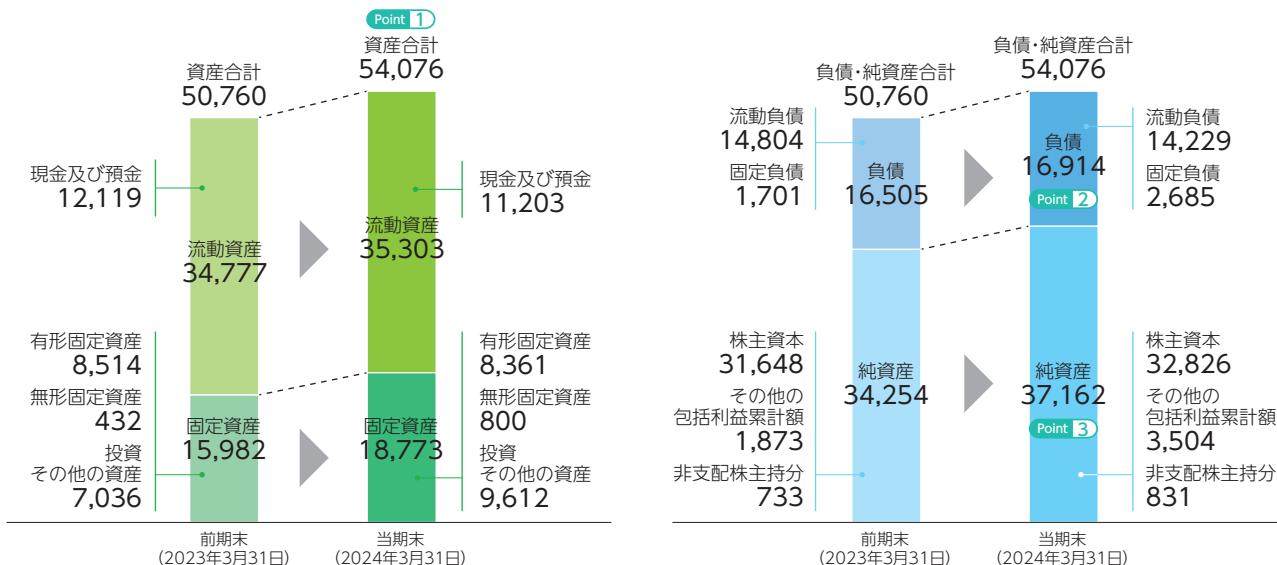
※産業廃棄物量は、2019年度基準値の見直しに伴い既に公表済みの進捗状況を修正

91期 (2024年度) 強化方針

- 資源循環推進：地域型資源循環構想 検討と推進
- 「サプライチェーン排出量」の把握と削減目標策定

連結財務諸表の概要

[資産の状況] (百万円)



資産の状況

Point 1 総資産 (= 資産合計)

総資産は前連結会計年度末に比べ33億16百万円(前期末比6.5%)増加し、540億76百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、現金及び預金が9億15百万円減少した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が8億8百万円増加したことや、電子記録債権が8億63百万円増加したことなどにより、5億25百万円(同1.5%)の増加となりました。これらは主として当連結会計年度末日が金融機関の休日であった影響によるものです。固定資産では、有形固定資産が1億53百万円減少した一方で、無形固定資産が3億68百万円増加、また投資その他の資産が25億76百万円増加したことなどにより、27億91百万円(同17.5%)の増加となりました。

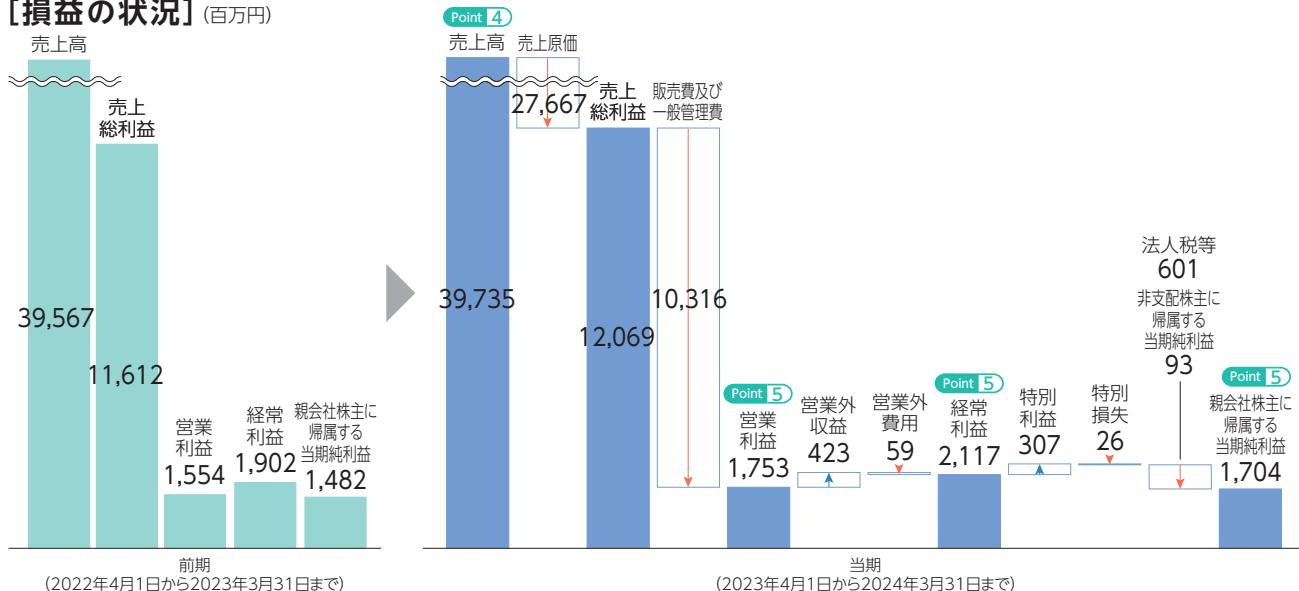
Point 2 負債

負債は前連結会計年度末に比べ4億9百万円(前期末比2.5%)増加し、169億14百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、未払費用が1億40百万円増加、また賞与引当金が83百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が8億87百万円減少したことなどにより、5億75百万円(同3.9%)の減少となりました。固定負債では、繰延税金負債が7億62百万円増加、またリース債務が2億53百万円増加したことなどにより、9億84百万円(同57.9%)の増加となりました。

Point 3 純資産

純資産は前連結会計年度末に比べ29億7百万円(前期末比8.5%)増加し、371億62百万円となりました。主な増減要因は、その他有価証券評価差額金が12億6百万円増加、また利益剰余金が11億37百万円増加したことなどです。株主資本合計は328億26百万円となり、この結果、自己資本は363億30百万円、自己資本比率は67.2%となりました。

[損益の状況] (百万円)



損益の状況

Point 4 売上高

建築資材事業では環境配慮型商品ブランド「Fukuvalue」の拡充に注力するとともに、新製品、既存製品問わず新市場に向けた販路の拡大に取り組みました。特に注力製品についてはデジタルマーケティング、ウェブセミナー、展示会を通じて、新たな顧客の開拓と関係強化に努めています。

製品別では、外装建材において樹脂製瓦葺「エコランバー」が堅調に推移した一方で、住宅用防水部材「ウェザータイト」や換気部材が伸び悩み、50億29百万円（同10.1%減）となりました。

内装建材においては、養生材や見切部材が低調に推移しましたが、樹脂開口枠や高性能断熱材「フェノパボード」が順調な伸びを示し、129億13百万円（同1.3%増）となりました。

床関連材においては、床支持具やフリーアクセスフロアが伸び悩みましたが、樹脂系床仕上材、乾式遮音二重床システム部材などが好調に推移し、79億64百万円（同0.2%減）となりました。

システム建材においては、リフォーム用システム建材が堅調に推移した一方で、防蟻関連材が伸び悩み、37億65百万円（同7.4%減）となりました。

こうした結果、建築資材事業の売上高は、296億71百万円（同2.3%減）となりました。

産業資材事業の売上は、100億65百万円（同9.5%増）で、売上高全体の25.3%を占めました。

インバウンド回復のもと、バス関係の車両部材が堅調に推移しました。乗用車の車載向け精密化工品は、中国市場経済の停滞による影響から、受注は弱含みで推移しました。車載向け部材の落ち込みをカバーすべく、他の分野での受注活動に注力いたしました。

以上により、当連結会計年度の売上高は、397億35百万円と、前期に比べ0.4%の増収となりました。

Point 5 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

利益面につきましては、収益性改善に向けた取り組みによる売上高総利益率改善と、経費抑制から、営業利益17億53百万円（前期比12.8%増）、経常利益21億17百万円（同11.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益17億4百万円（同15.0%増）となりました。

なお、特別利益として退職給付信託資産返還益2億64百万円（前期1億89百万円）を計上しています。

会社の概要

会社の概要

(2024年3月31日現在)

創 立 1953年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

主要な事業品目

建築資材

外装建材

セミックス(窯業系不燃外装材)、左官定木、エコランパー、換気材、スーパーエアテックス(透湿防水シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材

内装建材

バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)、越枠(不燃手すき和紙化粧板)

床関連材

クッションフロア、床タイル、フリーフローア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(ブラ束、鋼製束)

システム建材

エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、プラスチック(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

産業資材

樹脂サッシ 窓枠、浴室用ドア

産業機器 車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

取締役・監査役、顧問

(2024年6月18日現在)

代表取締役会長 CEO 八木 誠一郎

代表取締役
社長執行役員 COO 森 克 則

取締役 岩 淵 滋

取締役 諫 山 滋

取締役 南 保 勝 仁愛大学 人間学部
コミュニケーション学科
特任教授

取締役 采 野 進

取締役執行役員
生産イノベーション本部長
CTO 小 林 俊 幸

常勤監査役 大 畑 忠

監査役 玉 井 三千雄 玉井公認会計士事務所長

監査役 藪 原 孝 夫 藪原孝夫税理士事務所長

顧問 鎌 田 昌 利 長瀬産業株式会社
取締役 兼 常務執行役員

株式の状況 (2024年3月31日現在)

株式の状況

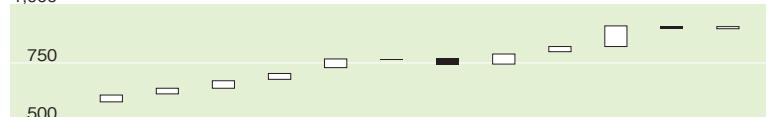
株式の総数	
発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数	19,920,248 株 (自己株式768,177株を除く)
当期末現在の株主数	3,922 名

大株主

株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)	1,855,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
八木誠一郎	769,703
株式会社福井銀行	710,300
昭和興産株式会社	669,573
株式会社北陸銀行	624,900
蝶理株式会社	600,382
八木信二郎	540,581

株価チャート

株価の推移 (単位:円)

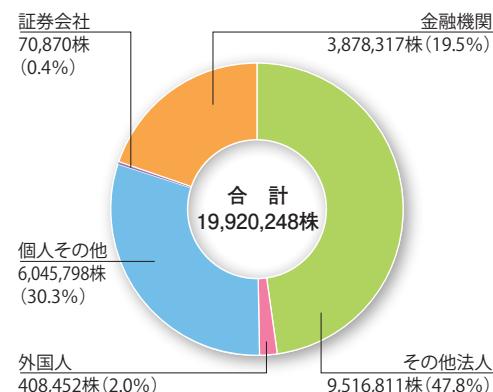


出来高の推移 (単位:千株)

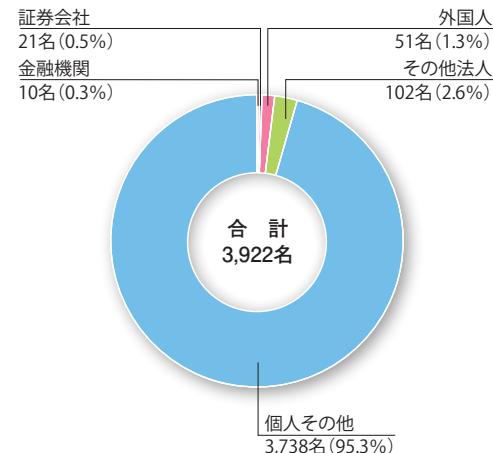


株主分布状況

〈所有数別〉



〈所有者別〉



企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期 末 配 当 3月31日
	中 間 配 当 9月30日
	※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日の
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
	https://www.fukuvi.co.jp/
上場証券取引所	東京スタンダード市場・名古屋メイン市場

単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、
環境に配慮し、植物油インキ
を使用しております。

